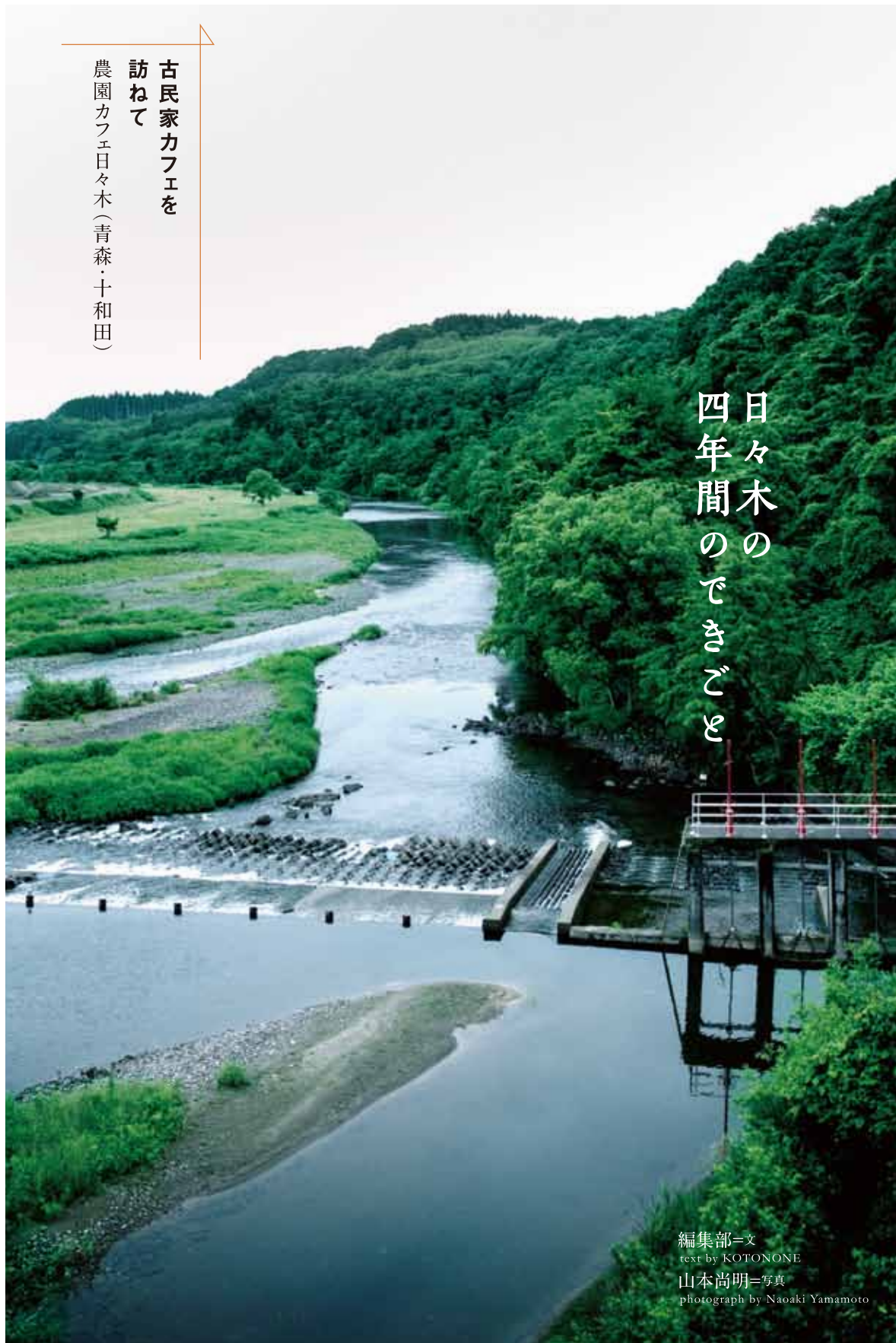


日々木の  
四年間のできごと



古民家カフェを  
訪ねて  
農園カフェ日々木(青森・十和田)

編集部=文  
text by KOTONONE  
山本尚明=写真  
photograph by Naoaki Yamamoto

八戸駅から車で四〇分。山の中を通り抜け、どこまでも広がる田んぼの間を走ると、ブルーベリー畑が広がる一面に、どっしりとした農家の古民家が見える。自然に囲まれた土地で、地元の素材を使ったランチを出すカフェを訪ねて、青森・十和田に向かった。

梅雨空ランチタイム

雨をさげながら、枕木が並ぶアプローチを走って玄関の引き戸を開けると、コーヒーのいい香りがした。広い玄関からは、フローリングのダイニングと二間続きの座敷が見える。高い天井には大きな梁。奥には薪ストーブもある。

午前二時五五分。「ありや、もういっぱいだったか?」。傘を畳みながら、店内を見ておぼちゃんに驚いている。平日で雨、まだお昼前なのに女性客ではほぼ満席。ランチを食べながら「この長芋、こうやって食べるとおいしいのね」と料理の話、最近都会から帰ってきた息子の話、手づくりのアクセサリの話…。女性たちのおしゃべりは止まらない。

日々木は、青森県十和田市にある農園カフェ日々木。冬は雪に覆われる十和田にあつて、年間延べ一万二〇〇〇人のお客さんが訪れる。「昨日までずっと晴れていたのに…。」代表の立崎文江さんが、申し訳なさそうに迎えてくれた。カフェのオープンは一〇〇七年。そして「立崎さんの意思で」障害者といっしょに働くことを決めたのが二〇一〇年。



illustration by Mika Daigo

